



剣道を通して異文化交流

国際剣道クラブ (ピーター・リー)

初めまして。私はイギリスから都城市に転入し、昨年末からJETプログラムのALTとして勤めているピーターと申します。日本に行きたいと思った理由がいくつかありますが、剣道はその一つです。

私が幼い頃、海外旅行は家族にとってお金がかかりすぎてできませんでした。イギリスのロンドン市で生まれ育ち、常に異文化交流や多文化共生を体験できました。ロンドンにはいくつかの世界級の博物館があり、私が一番気に入っているのは、世界中の出土品を持つ大英博物館です！この博物館では日本文化専用の展示スペースがあり、様々な伝統的絵画、剣、侍の鎧等々があります。恐らくその展示物を見て、私の中に剣道に対する興味が沸いてきたのでしょうか…

ようやく2008年頃にロンドン大学の剣道クラブに入会しました。剣道を体験したい方は防具のレンタルができ、最初から防具一式を購入する必要がないのは大変便利です。大学のクラブでの練習を通して一番良かったことは、会員の多様性です。クラブのメンバーは世界中の様々な国から来られているのです！おかげで剣道を通してアジア、アメリカ、ヨーロッパ等々から来られた皆様の多種多様な身の上話を聞くことができました。

私の所属する国際剣道クラブのモットーは、「Crossing swords and crossing borders」(剣を交えて、垣根を越える)です。初めて聞いたと



全国選抜軍事剣道大会「National Invitational Army Taikai」に参加された「しゅどうかん」のチーム。
左:三段アドリアン・デュランさん
中央:ピーター・リーさん
右:三段ロブ・タイレルさん
参加資格があるのは、イギリス軍の剣道活動を支援するクラブに限ります。



五段田中良太郎さんが帰国前に撮った写真。ピーター・リーさんは左、イギリスのチーム・キャプテン、ジェイムズさんは中央の奥。



福岡県から来られた先生方や生徒達の最終練習。

き、少しおかしく思いましたが、今は心の奥底に響くようになりました。剣道の大会やセミナーに参加することでイギリス全体を回り、来日してからは都城市の学校の剣道部に入り、生徒達とより一層交流ができるようになりました。

剣道を通して人間として成長ができ、体験したことがないことに挑戦する自信を持ち、自己研鑽の精神を身に着けました。その上に健康的ですし、トレッドミルで数キロ走るより良いですね！



「しゅどうかん」の大会終了後集合写真。(チェルトナム、イギリス)



Aussie Bites (オーストラリアを、ひとかじり!)

～MIA会員 児玉留利子さんによるオーストラリア紹介～

「忘れられないビーチウェディングとオーストラリア旅行」

韓国経由でシドニーに到着。季節は11月秋。旅の目的は人生初ビーチウェディングへの参列。

シドニーについてその日は、せっかくなのでディナークルーズに乗船。サンセットの風景、船から見るシドニーの夜景に美味しい料理に生演奏。夢見心地で旅の疲れも一気に吹き飛ばす。

翌日は、タクシーで結婚式の行われるビーチへ。披露宴の行われる建物から浜辺の結婚式場へ素足で移動。ブライズメイドも式のスタイルも全て初めて見る光景映画のシーンのよう。ありがとうTim、招待してくれて。

次の日からせっかくなので観光に。

ワイナリーツアーに参加したり、たまたまネットでホームページを見つけたジャックさんの日本語ツアーでブルーマウンテン、キングステーブル、自然動物園ツアーに連れて行ってもらいました。なんとこのツアーのオーストラリア人が元宮崎県のALTという経歴の持ち主！異国が一気にホームになり、景色だけでなく会話も楽しい旅の思い出になりました。

シドニーを発つ前の夜、Timのご実家でのパーティーに招いて頂きました。数日前の結婚式の感動の余韻が残ったま

まで。お庭にはTimから贈られたという大きなバーベキューグリル、「George Foreman」があって、それでお父様が美味しいお肉を焼いてくださったり、集う人達の笑顔、楽しいお喋り、ご家族のホスピタリティの素晴らしさ!全てが印象深く、楽しすぎて、もうオーストラリアにぞっこんにならないはずがないです。私の大切な思い出です。



七夕(チーシー)

～都城市中国国際交流員 銭さんによる中国紹介～

今年の8月4日、旧暦の七月七日は、中国の伝統的な祝日七夕です。今回は中国で広く伝わっている七夕伝説を紹介します。

七夕の起源は二千年ほど前の漢の時代からと言われています。その後、唐と宋の時代に流行し、長い歴史を持つ中国伝統行事の中で最もロマンチックな祝日です。2006年に国が七夕を初の国家級非物質文化遺産に登録し、今後も伝統的な歴史祝日として保護することに取り組んでいます。

中国の伝説では、七夕(旧暦7月7日)の夜空を見上げると、彦星(牛郎星)と織姫(織女星)が天の川で出会うのが見え、瓜棚の下から星を眺めると、二人のロマンチックな愛のささやきが聞こえると言われています。さて、その伝説はどのようなものでしょうか。

昔、牛家庄という村に一人の青年がいました。毎日牛の世話や番をしていたので、人々は彼を牛郎と呼ぶようになりました。ある日、牛郎は牛を連れて草原に餌を食べさせに行きました。木陰でうつらうつら眠りかけていると、夢の中で牛が話し掛けてきました。「牛郎、明日七人の天女が森の奥の池で水浴びをする。天女の1人は天帝の許しを得て下凡(下界の人間になること)する予定なので、木の枝にかかっている天衣を奪ってしまえばもうその天女は天界に戻れない、おまえはその天女と結婚しなさい。」と彼に言いました。翌日、牛郎は牛に言われた通り、七人の天女の中の織女の天衣を隠



して、予言通りに夫婦となりました。牛郎は牛を連れて畑仕事をし、織女は機を織る。二人は普通に幸せな生活を営み、二人の子供にも恵まれました。実はこの牛は金牛星が生まれ変わって人間界に出現した牛なのでした。月日はたち、牛がまた牛郎に「織女の下凡は明日でちょうど7年目の満期になるので、天帝の命令によって天界に帰らなければならない。だが、一つだけ連れ戻す方法がある。私(牛)を殺して皮をはぎ、明日、織女が天に昇るとき、その皮をかぶって子供達と共に追いかけるのだ。うまく捕まえられれば連れ戻すことができる」。そう教えると牛は自ら岩に頭をぶつけて死んでしまいました。牛郎は泣く泣く牛の皮をはぎ、子供達を乗せるための二つの籠と天秤棒を用意しました。翌朝、織女は今まで織った機を牛郎に手渡し、涙ながら二人の子供に別れを告げました。織女も天帝の命令に逆らうことができません。子供の手を振り解き天に昇って行こうとすると、牛郎は用意した籠に子供を入れ天秤棒で担ぐと、牛の皮を着て追いかけてきました。もう一息で手が届くその瞬間、王母娘(天帝の妻で織女の母親)がかんざしで二人の間に線を一本引きました。それが「天の川」となり、二人を東西に引き離してしまいました。二人の悲しむ姿を見かねた「喜鵲(かささぎ)」は毎年七夕の日には群れとなって自らの体で「喜鵲橋」を作り、牛郎と織女をこの橋の上で再会させることになりました。七夕の夜空を見上げると、天の川の東に三つ並んだ星があり、真中の一番明るいのが牛郎星で、その両脇の小さな星が二人の子供だそうです。天の川を挟んだ西側には織女星が輝いています。牛郎と織女の悲しいラブストーリーが長い年月を経て、現在、中国のバレンタインデーに変化しています。

協会情報等

インフォメーション

◇お知らせ

9月10日(土)に開催を予定しておりました「世界のビール&トリビアナイト」は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止といたします。楽しみにしておられた皆様には大変申し訳なく思いますが、皆様のご理解をよろしく願いたします。

◇MIA NEWSの記事募集

過去の海外旅行記、海外留学体験記など、国際交流・国際協力に関する記事をしてみませんか。1,200字程度で、写真1~2枚、文字数は1,200以下でもかまいません。興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

◇都城市立図書館の「国際交流エリア」

都城市立図書館1階の「国際交流エリア」に、都城市の友好交流都市(モンゴル国ウランバートル市、中国重慶市江津区)に関するものを展示しています。展示物は、折に触れて入れ替えをします。図書館に行かれた時は、ぜひ、ご覧ください。

問合せ先: 都城市国際化推進室

電話 0986-23-2295

E-mail intl@city.miyakonojo.miyazaki.jp

◇外国人災害サポートボランティア養成講座(都城市)参加者募集!

自然災害が起き、避難所で困っている外国人を見かけたとき、私たちはどのような手助けができるでしょうか。この講座では、災害時に外国人支援に必要な知識や支援体制について学びます。受講料は無料です。

期 日: 令和4年9月10日(土) 13:30~15:30

場 所: 都城市総合文化ホール(都城市北原町)

対 象: 外国人支援に関心のあるすべての方(子どもさんと一緒に参加できますが、託児はありません。)

定 員: 30名(応募多数の場合は抽選)

申し込み期限: 8月27日(土)

申し込み方法: 住所、氏名、電話番号を、来館・電話・FAX・メールでお申し込みください。

【申し込み・問合せ先】

(公財)宮崎県国際交流協会

〒880-0805 宮崎市橋通東4丁目8番1号

カーノー宮崎地下1階

電話 0985-32-8457 FAX 0985-32-8512

E-mail miyainfo@mif.or.jp

編集部より

今年の夏は暑いですね。先日、仕事で西米良村に行く機会がありました。

車で2時間ちょっと。宮崎県内ですが、訪れるのは初めてでした。

最初に立ち寄ったのは、令和の桃源郷と呼ばれる「おがわ作小屋村」。こちらは、地元食材を使った16もの小皿料理が味わえるお食事処や宿泊施設があり、年間3万人近い人が訪れるそうです。

次に向かったのは、西米良村の夏の風物詩「にしめら川床」。谷川に設置された床(とこ)で涼を感じながら西米良の食材が凝縮された弁当を堪能しました。最高に美味しかったです。また、今人気のグランピングや川下りも楽しめる所もあります。

みなさんも西米良の涼を感じてみてはいかがでしょうか。 [福重]

皆さん、こんにちは。行ったつもりで【ぶらり旅コメント】始まりです…ドンドン 今回は「長野県」です。長野県と言えば、上高地や松本城、諏訪湖などが観光地として有名ですね。そんな長野県に伝わる昔話に『姨捨山(おばすてやま)』があります。殿様が「60歳になった年寄りには山に捨てよ。」と命令しましたが、子を思う親の気持ちにふれた男は母親を連れ帰ります。その後、隣国からの無理難題を年配の知恵で解決していきます。殿様から褒美をもらうことになった男は、実は母親の知恵だったこと。山に捨てずに連れ帰っていたことを殿様に告げます。年寄りのありがたさに気付いた殿様は年寄りを山に捨てるというおふれを止めましたとき…って昔話ですが、60歳って今では元気で地域の中では若者ですよ。

あと10年ほどで年寄りです…まわりの皆さんに負けないようにがんばります!! [西畑]

まだまだ暑い日が続きますが、皆さんは元気にお過ごしでしょうか? 家にいると蒸し暑くてついクーラーを付けてしまいがちですが、だれよりもクーラーを待ち焦がれているのは我が家のアイドル犬のくーちゃんです。お昼を過ぎると家にいる家族の誰かの視界に入る場所にスタンバイ。そしてクーラーとこちらをチラチラと何度も見て「まだ付けないの? 付けてくれないの?」と言わんばかりのアピールが始まります。そしてそのアピールをよくされるのが私と父の2人…母ではなく私たちを選ぶところが賢いなあと感心しつつクーラーを付けています。 [川内]

私のモンゴルのお姉さん、ソヨさんが退職されることはとても名残惜しいです。

仕事でも生活でも、数えきれないほど大変お世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。可愛いご家族の皆様にもすぐお世話になりました。大変な時に、いつも手助けしてくれたソヨさんがいなくなるのは寂しいけれど、たくさん思い出ありがとうございます! これからもご健康とご活躍をお祈りしています。長い間本当にお疲れさまでした! [銭]

7月10日、18日、24日の三日間、数年ぶりにダイビングに行きました! 最初の一日はリフレッシュコース(ダイビングの基礎知識を持ち、やり方を覚えているかどうかチェックする)、次の二日間はアドバンスコース(より深く潜り、ナビゲーション等のスキルを上昇するためのコース)を受講し、練習しながら宮崎市に近い島や海岸の素敵なサンゴ礁や魚たちを自分の目で見ました!

皆さんも是非チャンスがあれば、ダイビングを体験してみてください! 実に別世界に入る感覚です! [ジョージ]

8月から9月にかけては、あまり歓迎したくないお客さんがやって来ます。そう、台風です。これから、台風シーズンが本格化します。台風の発生は、1991年から2020年の30年平均で7月3.7個、8月5.7個、9月5個と8月に最も多く発生しています。このコメントを書いている7月21日現在、今年はまだ4個しか発生していませんので、これからまだまだ数多く発生する見込みです。「空振りOK」という気持ちで、避難場所への経路確認、情報の入手、台風接近中は不要不急な外出を控える、危険な場所へは近づかないなど、身を守るための備えをできる限り行ってください。 [渋谷]

皆様お久しぶりです。ここにコメントが書ける日を心待ちにしていました!

七夕に娘が「ママが べとなむのひととおはなしができますように」というお願い事を書いていました。それはつまり、ママがベトナム語を話せるようになりますように、という意味なんです。ビックリです! 何の努力もせず、この願い事、叶えばいいのに! [迫田]